

科目名		開講時期	開講学年	◎/ 選	2単位 (30h)
高齢者看護学実習		通年	3		
担当教員名	電子メール	オフィスアワー			
※清水美和子 柿沼秀子・栗原直弥	miwako.shimizu@tohto.ac.jp	金/12:25~13:15			
授業の概要					
高齢者介護施設において、安定期にある疾病および加齢変化を伴いつつ療養生活を送っている対象の看護について ICF の視点から学ぶ。また通所施設における対象及び家族に対する施設の果たす役割と看護について理解を深める。					
キーワード	到達目標				
介護保険施設 高齢者・家族支援 アクティビティケア 生活機能 認知症高齢者 多職種連携 人権尊重	【実習目標】 1. 施設で療養生活する高齢者の発達課題をふまえ、全人的に理解する。 2. 施設で療養生活する高齢者の OQL 向上をめざし、ICF モデルに基づいた日常生活支援が展開できる。 3. 認知症をもつ高齢者との生活場면을共有し、その人らしさを尊重した対応に努める。 4. 高齢者とその家族を取り巻く保健医療福祉システムの実際について理解できる。 5. 高齢者の人権を尊重する態度を養い、高齢者観を深めることができる。 6. 学生として責任ある行動をとり、看護専門職として望ましい態度を身につける。				

授業の計画・形式					
第1週	実習初日に施設のオリエンテーションを受け施設の概要を理解する。受け持ち利用者を1名決定し、入所者とのコミュニケーションや生活援助を通して、その人らしさと対象の強みについて理解する。ICF の概念に基づき全体像を把握し、対象に応じた生活援助を実践する。学生主体で実施するレクリエーション企画案を施設指導者やスタッフと共有し検討する。地域で生活し通所サービスを利用する高齢者の家族背景を知り、通所サービスの意味づけや受け止めについて討議し学びを共有する。				
第2週	1週目にとらえた全体像から、利用者に必要な生活援助を実施し評価する。また、多職種との協働について理解する。ケアスタッフや看護師のケア場面での観察を通して、認知症高齢者へのかかわり方やケアの特性について理解する。学生が企画運営するのレクリエーションを実施・評価し、利用者への影響について考える。施設で生活をする高齢者の看護（その人らしさや強みを生かした看護）についてグループ発表を行い学びを共有し、高齢者観について自己の考えを明確にする。				
第3週					
教科書、参考書					
教科書	○教 1. 北川公子著:系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版【電子版】医学書院,2023 ○教 2. 鳥羽研二著:系統看護学講座 専門分野 老年看護、病態・疾患論 第5版【電子版】医学書院,2023 ○教 3. 山田律子著:生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版,医学書院2022 ○教 4. 大塚真理子著:カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術、第2版、医歯薬出版株式会社2018				
参考書	○参 1. 認知症高齢者へのレクリエーションに関する本、パーソンセンタードケアに関する本など多数を参考とする。				
先修要件					
高齢者看護学に関する科目の単位をすべて取得していること。高齢者看護学概論、高齢者看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位を取得していること。					
成績評価					
本試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・演習)	その他	合計
0%	0%	0%	グループ発表も含めて評価する	実習内容・記録 100%	100%
担当教員からのメッセージ					
介護保険施設にて療養生活を営む高齢者の日常生活を通して、その人らしさや強みを引き出しながら状態に応じたケアが実施できるように臨みましょう。実習では、高齢者施設における看護及び看護師の役割について学び、多職種の連携について学びを深めていきます。また、学生主体で取り組む企画のレクリエーションを通し、リハビリテーションとしての意味や脳の活性化に関する効果などについて考えます。グループ討議により、倫理的課題とする身体拘束や高齢者と安全、コミュニケーションについて自己の考えを発表し、他学生との学びを共有しながら高齢者観を探究しましょう。					